

## 地域コミュニティの存続について【前回までの振り返り】

## 第1回委員会ワークショップでのポイント

## 【キーワード】

- ・地域コミュニティの存続
- ・つながり・交流
- ・地域愛・教育
- ・持続可能
- ・居場所
- ・地域完結
- ・仕事、お金



- ・地域のコミュニティをどう存続させるか。
- ・高齢者の困りごとを、どのように拾い、どう解決していくのか。
- ・地域の担い手をどう作っていくのか。若者、新住民
- ・自治会の運営モデルを作れるか。
- ・まちの未来をどう可視化していけるか。

⇒このために、どんな機能が必要か。

## 池庄町自治会の取組事例

- ・世帯数：100世帯（隣組：8組） ・人口：340人（1世帯平均 3.4人）
- ・構成等：高齢化率 35%、平均年齢 50.7歳
- ・自治会長をはじめ様々な分野に役員が60人（男48人、女12人）
- ・環境、防災、交流、福祉、人権、宗教系の行事を実施

## 第2回委員会での主な内容

## ＜事務局からの問い＞

- ・多くの人が地域のコミュニティは大事だと感じている。
- ・地域のつながりが薄くなってきていると感じている。
- ・自治会が一番身近なコミュニティで、暮らしの基礎的な部分なので、崩れてしまうと地域の未来を見通すのが難しい。
- ・一方で、地域はしんどいという意見もある。

⇒ 新しい形であったり、必要とされる理想の形で地域を守っていくために、何が問題なのか。

## ＜委員の皆さんからの意見＞

## ◇ 参加しやすい自治会

- ・昔に比べて、家族構成に大きな違いがあり、核家族や1人でも参加できる環境や、自治会が取り組む内容も検討しなければならない。どうすれば自治会に参加しやすくなるかという検討が必要。
- ・新興住宅に住み、個人の事情が考慮されず、自治会がとても怖いイメージが未だにある。少しでも参加する気持ちを持ってほしいとの思いをどう発信するかが重要。上手くやっていく仕組みを今いる人達で考えないといけない。
- ・地域がしんどくて、生活ができないと言って出て行かれる地域のあり方を考える必要がある。

#### ◇ 地域の大切なことを守っていく大変さ

- ・古い集落に住んでいるので、役を受けると大変で自治会長は特に大変。地域の人の命と財産を守るという最小限度のことだけでも非常に多いので、自治会内の役員が役目を果たしても、住民が参加しないと地域はつぶれる。大多数の意見に従ってもらわないとやっていけない。

#### ◇ 地域の人が、広く「役」をもつ仕組み

- ・地域住民に自治会の何らかの「役」を持ってもらおうと、「まちづくり応援隊」という仕組みを作った。その中で、若い人や女性も自治会役員の大変さや現状を知ってもらえれば、何か変わることもあるのでは。

#### ◇ 引け目なく参加できるステージ

- ・自治会話を聞いていると、楽しくない、つまらない。本当に必要なことをしてもらっているが、男性社会のつまらなさを感じるのは、若い世代の女性の共通の印象と思う。いろんな関わる場面、ステージさえ作ってもらえれば、自治会に協力したいという気持ちは誰でも持っている。
- ・今後、自治会を存続していくのであれば、引け目を感じないステージを作ることが必要。

#### ◇ 地域の未来について議論

- ・そもそも自治会は住民の組織なので、住民が集まって、どんなまちづくりをしたいのか、どんな地域にしたいかを話すことから始めないと、既存の慣習にとらわれていると、つまらない。
- ・池庄町の例のような多くの取組や、伝統や自治、規律を守ってきた要素が農村の今の風景を保っていると思うが、今の住民の気持ちが一番大事なので、今後も存続させるものを腹を割って話さないといけない。いろんな世代の感覚も取り入れながら、本当に必要か、今後10年20年先に必要なかということ話すことが優先。
- ・自治会もどの組織も運営が難しくなっているので、みんなでどうしていくかという議論は避けられないし、もっと女性に入ってほしいと思う。

#### ◇ 楽しみをいれる

- ・地域のアンケートで、必要なことの1位が防災だったので防災バーベキューをしたら、今まで自治会の行事などで顔も見なかった人達がたくさん参加してくれた。そういった「楽しみ」も入れていかないと、行きたくない場になりかねない。
- ・地蔵盆のお菓子を配るときに、中学生や子どもたちのお母さん方が手伝ってくれた。慣れている人だけではなくて、面倒だとか大変そうというイメージではなくて、菓子がもらえるというような「楽しいイメージ」を持っている世代がずっと続いてほしいと思う。
- ・自治会の空き地にかまどベンチとピザ窯も作った。子どもが多い地域なので、ピザを焼いたらみんな集まってくれるかなと取り組んだが、それから毎年、防災の日にピザを焼いて、子どもや親等100人程が参加するイベントになった。準備は大変だが、何かあったときには炊き出しができるという話をしたり、その横に畑を作って芋掘りができたり、こうした「楽しみ」を見つけないがらつながりを作るというのも大切。